

関連年表

柳沢秀行(岡山県立美術館学芸員)/古市保子(国際交流基金アジアセンター)編

年代	インドネシア	フィリピン
16世紀		1521●スペインによる植民地化開始。 1594●エンクレーピングによる木版術を用い、聖ドミニクを表紙にした最初のキリスト教教理問答集『ラ・ドクリアーナ・エン・ラ・レンゲア・エス・パニョーラ・イ・タガラ(スペイン語とタガログ語版キリスト教の教義)』が出版される。
17世紀		
18世紀		
1800年代		
1810年代	1816●インドネシア諸島の支配を、公式にオランダがイギリスから引き継ぐ。 1817●サー・トーマス・スタンフォード・ラッフルズの『ジャワ誌』がロンドンで発行される。	
1820年代	1825-30●ティボヌゴロ王子に率いられたオランダに対するジャワ戦争。 1829●ジャワの貴族ラデン・サレーが絵画を学ぶためオランダに留学し、広くヨーロッパ諸国、あるいはアルジェリアをヴェルネとともに旅行する。	1821頃●ダミアン・ドミンゴによりフィリピン最初の美術学校である美術デザインアカデミーが設立される。
1830年代		
1840年代		
1850年代	1851●ラデン・サレーが帰国し、ジャワでは主として風景画と肖像画を描く。	

タイ

日本

西欧

1851 ● ラーマ4世モンクット王即位。
 これ以降、寺院の壁画に、空気遠近法、一点消失図法などの、ヨーロッパ絵画の技法が取り入れられる。

1856 ● モンクット王はアメリカ大統領からアメリカの風景の写真と銅版画を贈られ、これらは後に画家クルワインコーンにより国王の寺院の壁画のために参照される。またヴィクトリア女王からカメラを、ナポレオン3世からは半身の肖像画を贈られる。

1799 ● 司馬江漢は『西洋画談』を著し、絵画における客観的写実描写の重要性を主張する。

1775 ● アメリカ独立戦争。
 1789 ● フランス革命始まる。

1804 ● フランスでナポレオンが帝位につき、ヨーロッパ大陸の征服を目指す。

1814 ● ゴヤ、抵抗するスペイン人を虐殺するナポレオンのフランス軍を描いた《1808年5月3日》などを制作。
 アングル《グランド・オダリスク》制作。

1824 ● ドラクロワ《キオス島の虐殺》制作。

1840 ● アヘン戦争。
 1844 ● ターナー《雨・蒸気・スピード》制作。また前年にターナー擁護のためラスキンは『近代画家論1』を出版。
 1848 ● イギリスでラファエル前派が結成される。

1850頃 ● この頃、ミレーは働く農民を主題に《落穂拾い》などを、またドーミエは都市の下層民を主題にした作品を描く。
 1853 ● オースマンによるパリ街区の大改造が始まる。
 1855 ● パリ万博でアングル、ドラクロワに各々特別室が与えられる。またクールベは万博会場の近くで個展を開催し《画家のアトリエ》など自身の代表作を展示。

年代

インドネシア

フィリピン

1860年代

1870年代

1880年代

1890年代

1900年代

1902●オランダ植民地の首都であるバタヴィア(後のジャカルタ)に、バタヴィア・アート・サークルが設立される。

1908●ワヒティン・ステイロフソド医師などが、インドネシア最初の民族主義団体である「ブディ・ウトモ」(Budi Utomo)を始める。

1900-30年代●「ヒンディア・モレック/モーイ・インティ」(スジョヨノによる言葉で「美しき東インド」の意)を主題とした絵画がオランダとジャワの貴族に広く受け入れられる。画家としては、アブドゥラー・スリヨ・スプロト、バスキ・アブドゥラー、マス・ビルンガティ、ワキティなどがある。

1880●シモン・フローレス・イ・デ・ラ・ローサによって《クイアソン家の肖像》が描かれる。

1884●マドリッド万国博覧会においてファン・ルナの《スポリアリウム》とフェリックス・レスレクション・イダルゴの《さらし者にされた聖女たち》がそれぞれ金と銀メダルを受賞。

マリアノ・マドリナンの彫刻作品が他の展覧会で受賞。

1887●国民的英雄ホセ・リサールの処女小説『ノリ・メ・タンヘレ(我にふれるな)』が出版される。

1891●ホセ・リサールの2番目の小説『エル・フィリプステリモス(反逆)』出版。

1892●ディオニシオ・デ・カストロによる細密画法の作品《ソテラニア・ブソン・イ・キントス・デ・ヴェンタニリヤの肖像》。

1896●スペインに対するフィリピン革命。

1898●パリ条約により、フィリピンはスペインからアメリカへ移譲される。

1898-1945●アメリカ植民地時代。

1909●フィリピン大学に美術学科が創設される。

タイ

1863-68 ●タイの彫刻家ルアン・テブロジャナが、モンクット王を実際のモデルにして肖像彫刻を制作。

1868-1910 ●ラーマ5世チュラーロンコーン王によって、絵画、彫刻や装飾美術におけるヴィクトリア朝末期のサロン・スタイルがもたまれる。

1887 ●詩を主題にした絵画のコンペティションが開かれる。

1897 ●チュラーロンコーン王は初めてヨーロッパを訪れ、油彩画を訓練させていた宮廷画家のブラ・ソンラックリキットを同道する。

1904 ●トリノから来たチェーザレ・フェッロが宮廷画家となる。

1907 ●チュラーロンコーン王がヨーロッパを再訪。この時カルロス・デュランが王の肖像画を描く。ブラ・ソンラックリキットも同道し、彼は1910年に帰国しアナンタサマーコム戴冠殿の建築と装飾のためイタリアの美術家たちが雇われ、そのなかにはフレスコ画家のガリレオ・キーニがいた。

日本

1861 ●蕃所調所内に画学局が設置され、西洋画の研究が行なわれる。

1868 ●戊辰戦争。江戸を東京と改称し、天皇が京都より移る。明治と改元。

1876 ●工部美術学校開設。イタリアからアントニオ・フォンタネージ(絵画)、ヴィンチェンツォ・ラグーザ(彫刻)を招く。

1882 ●アーネスト・フェノロサの講演(後に『美術真説』として翻訳出版)が行なわれ、日本の伝統的な絵画の復興が主張される。

1889 ●大日本帝国憲法発布。東京美術学校が授業を開始するが日本画、木彫、工芸のみで、西洋画の課程は設置されなかった。洋画家たちは「明治美術会」を創設。小山正太郎、浅井忠、松岡寿、山本芳翠らが参加した。

1893 ●フランスでラファエル・コランに学んだ黒田清輝が帰国。

1896 ●東京美術学校に西洋画科が新設。黒田清輝らが指導にあたる。また黒田や、久米桂一郎は「白馬会」を結成。

1898 ●岡倉天心は東京美術学校長を追われ、「日本美術院」を結成。

1902 ●太平洋画会第1回展開催。以後、白馬会に対抗する主要な洋画団体となる。

1904 ●日露戦争始まる。

1907 ●第1回文展(文部省美術展覧会)開催。

西欧

1861-65 ●アメリカ南北戦争。

1863 ●サロン落選展にマネ《草上の昼食》、ホイッスラー《白のシンフォニー第1番》が出品され議論を呼ぶ。マネは2年後に《オランピア》を発表した際にも激しい非難を浴びる。

1870 ●普仏戦争。

1871 ●ドイツ帝国成立。パリでは民衆が蜂起して、パリ・コムニオン成立。

1874 ●第1回印象派展。ドガ、モネ、シスレー、ルノワール、セザンヌらが出品。

1880 ●ロダン《地獄の門》制作着手。

1884 ●パリでアンデパンダン展創設。

1886 ●スーラ、点描による新印象主義の代表作《グラン・ジャット島の日曜日の午後》を発表。

1889 ●パリ万博でエッフェル塔竣工。

モネ・ロダン二人展。

ゴーギャンらは「印象主義及び総合主義展」開催。

また、この頃ゴーギャンに学んだ若い画家たちが「ナビ派」結成。

1890 ●ゴッホ自殺。

1892 ●ミュンヘン分離派結成。

1895 ●ヴェネツィア・ビエンナーレ創設。

1897 ●クリムトを会長とするウィーン分離派が結成され、ユージェントシュティールが注目される。

1900 ●パリ万博でフランス美術百年展開催。また「アール・ヌーヴォー」の作品が多数展示される。

1903 ●ルノワールを会長にサロン・ドートンヌ創設。

1905 ●サロン・ドートンヌで、マチス、ドラン、ウラマンクらの作品に「フォーヴ」の名が付される。ドレスデンでは「ブリュッケ(橋派)」グループ結成。

ステューグリッツ、ニューヨークに画廊「291」を開設し、アメリカにおけるモダニズム運動の拠点となる。

1907 ●ピカソ《アヴィニョンの娘たち》制作。

年代

インドネシア

フィリピン

1900年代

1910年代

1915 ● フェルナンド・アモルソーロによる《ヘルナンド・デ・ヘススの肖像》が描かれる。

1917 ● フランシスコ・サンティアゴによるクンディマン(民謡ロマンス・バラード)『アナク・タリタ(貧困の子)』。

1918 ● フアン・アレジャーノとアントニオ・トレドの設計による立法府ビル(旧国会議事堂)が建設着工。

1920年代

1922 ● 公的教育機関である「タマン・シスワ」(Taman Siswa:「生徒たちの園」)がキ・ハジャル・デワンタラによりジャカルタで設立される。初期の生徒にルスリー、スジョヨノ、バスキ・レソボウォ、アバス・アリバシャがいる。

1923 ● 新即物主義系統のドイツ人画家ヴァルター・シュビースが、バタヴィアに到着しバンドゥ

1910-30年代●独立主義的な主題の作品が増える。

1912●芸術局が創設される。

1913●ロングリエン・ポーチャン(美術工芸学校)が設立される。

1923●1914-23までフィレンツェの美術アカデミーの教授を務めた彫刻家のコッラード・フェローチがタイに来て、1924年に王立芸術局の彫刻家に指名される。

1910●高村光太郎が『スバル』誌上の「緑色の太陽」によって、美術家の個性を尊重する表現主義的芸術観を表明。雑誌『白樺』創刊。

1912●明治天皇崩御。大正と改元。

高村光太郎、岸田劉生、万鉄五郎などにより「フェウザン会」結成。

1914●反文展を掲げる在野団体、「二科会」が創立される。また横山大観、菱田春草、下村観山らは岡倉天心の1周忌に再興日本美術院展覧会を開催。

1918●土田麦僊、村上華岳などが、京都で国画創作協会を結成。

1919●文展の組織を改め、帝国美術院創設。第1回帝展開催。

1920●この頃からパリへ渡る日本人画家が急増する。

普門暁らにより「未来派美術家協会」結成。また「ロシア未来派の父」を自称するグヴァイト・ブルリュックが来日し、前衛的な美術家たちに影響を与える。

1922●パリにおいて藤田嗣治がサロン・ドートン

1908●ブラック個展、キュビズム作品が展覧される。

1909●イタリア未来派の主導者マリネッティは、未来派宣言をパリのフィガロ紙に発表。

1911●アンデパンダン展でドローネー、レジェ、マルセル・デュシャンらにより大量のキュビズム作品が展覧される。

ミラノで未来派による最初の大規模な展覧会が開催。

ミュンヘンで「青騎士」第1回展開催。

1913●ニューヨークでアーモリー・ショー開催。ヨーロッパの同時代の作品が紹介される。

1914-18●ヨーロッパを主に第一次世界大戦。

1915●この頃から、ロシアではマレーヴィチ「シュプレマティズム絵画」、タリンの金属や木片などによる構成的なレリーフ作品など、アヴァンギャルドの活動が活発になる。

1916●フーゴー・バル、トリスタン・ツァーラなどチューリヒで「ダダ」運動を始める。

1917●ピカソはディアギレフのロシア・バレエ団の舞台装置と衣装を担当するが、以後ディアギレフはさまざまな美術家たちに同バレエ団に動員する。

雑誌『デ・スタイル』がモンドリアンらにより創刊。

キリコは「形而上絵画」を提唱。

デュシャン、ニューヨークのアンデパンダン展に《泉》と題した白い便器を提出し、出品を拒否される。

ロシア革命。

1919●グロピウスによりワイマールにバウハウス設立。以後、移転、封鎖などによりその性格も変転するが、クレー、カンティンスキー、モホリ=ナギなどが教える。

デュシャンは一時パリに戻りモナリザの顔に髭を描きこんだ《L.H.O.O.Q.》を発表、ダダの活動に参加。

ロシアでは国営により大規模な「非対象的創造とシュプレマティズム」展開催。

1920●ナウム・ガボ、キネティック・アートの先駆となる《立てる波》発表。

1924●アンドレ・ブルトン「シュルレアリスム第一宣言」。翌年パリで第1回シュルレアリスム展が開催され、以後同運動はヨーロッパに全体に広がる。

1925●オザンファン、ル・コルヴィジエの共著『近

年代

1920年代

インドネシア

ンに行く。オランダ人画家ルドルフ・ボネは1928年からバリに滞留した。

1928 ● ジャカルタにおいて「一つの国家、一つの民族、一つの言語」というスンパ・プムダ (Sumpah Pemuda:「青年の誓い」) が第2回インドネシア青年会議によって採択・承認された。

フィリピン

1928 ● 先鋭的なモダニストであるウィクトリオ・エダージェスがフィリピン・コロソピア・クラブで個展を開催。《建設者たち》と《スケッチ》が含まれていた。

1930年代

1935 ● チョコルダ・グデ・アグン・スカワティが、シュピースとボネとともに、バリに「ピタ・マハ」(Pita Maha) を設立する。

1935-39 ● この間、毎年、国際展覧会がバタヴィア・アート・サークルで開催され、ゴッホ、ロダン、ゴーギャン、カンディンスキー、シャガール、ピカソなどが展示された。

1937 ● 「プルサギ」(PERSAGI: インドネシア画家連盟「Persatuan Ahli-Ahli Gambar Indonesia」の略) がスジョヨとアグス・ジャヤを中心にジャカルタで結成される。「モーイ・インディ」の絵画に反発した動きであった。

1938 ● アファンディ、ヘンドラ・グナワン、バリリが「クロン・ポック」(Kelom Pok:「5人組」) をバンドンで結成。アファンディは後に「プルサギ」に加わる。

1930 ● サント・トマス大学において建築学部が創設され、エダージェスが学部長となる。

1931 ● フアン・アレリャーノが設計したアール・デコ様式のマニラ・メトロポリタン劇場の開設。

1933 ● ギリェルモ・トレンティエノによるカオカン市の円形広場にあるボニファシオ記念塔。

1938 ● ガロ・B. オカンボによる《褐色の聖母》。

1930-31 ● ナリット王子に従うアーティストたちが、王宮のロイヤル・チャペルにクラーマキエン(ラーマヤナ)シリーズを描く。

1933 ● フェローチが、プラニート・シラパカム学校(Rongrien Praneetsilpakam :「美術学校」の意)のカリキュラムをつくる。教師としてはバブルで建築を学んだサロトラタニマン僧、ルアン・サラリットそしてヨーロッパに20年滞在する間ホイッスラー、サージェントのスタイルを取り入れてきたパティンクビムリキット氏がいた。校名は1937年にパカチャン美術学校(Rongrien SilpakornPakachang)に変更され、1943年まで続いた。

1933-35 ● ルアン・ウィチット・ワータクーンが「芸術局」のディレクター代理、35-42年にはディレクターとなる。彼は1932年にムッソリーニに関する本を出版する。

1937 ● 名古屋においてタイを含む32カ国による「汎太平洋平和博美術展」が開催される。芸術局が美術雑誌『Silapakorn』(シラパコーン:「美術」の意)の刊行を始める。美術学校から最初の卒業生が出る。

1939 ● 国名を「シャム(SIAM)」から「タイ(THAILAND)」に改める。

ヌの審査員となる。

1923 ● 関東大震災。

中川紀元、矢部友衛、神原泰、古賀春江など二科展の急進的な若手が結成した「アクション」の第1回展。

村山知義ベルリンより帰国。意識的構成主義を唱え、中心となって「MAVO」を結成。

1924 ● 「MAVO」「アクション」などを中心に、前衛的な美術家たちが集結し「三科」を結成。展覧会活動や「劇場の三科」などパフォーマンス・イベントを執行するが、短期間で分裂、解散。

1926 ● 大正天皇崩御。昭和に改元。

佐伯祐三、前田寛治、里見勝蔵らが「一九三〇年協会」結成。

1928 ● 普通選挙法に基づく最初の衆議院選挙。3月、治安維持法により共産党関係者の一斉検挙。

1929 ● 10月、ニューヨークの株式市場が大暴落し、世界恐慌の引き金となる。

藤田嗣治帰国。

「日本プロレタリア美術家同盟」創立。

1930 ● 大原美術館開館。

「一九三〇年協会」を母体に「独立美術協会」結成。既存の国内の美術団体のみならず、フランス美術からの独立を念頭においた会名であった。

1931 ● 満州事変勃発。

国吉康雄アメリカから一時帰国。国吉の他にも、石垣栄太郎、北川民治などがアメリカで活躍した。

この頃から池袋周辺の貸アトリエに若手画家が集い、また彼らによる小規模なグループが多数結成される。

1932 ● 「巴里・東京新興美術展」が開催され、ピュリスム、シュルレアリスムなどフランスの新傾向の作品が紹介された。

1934 ● 福島繁太郎コレクションのドラム、ルオー、ピカソなどの作品が展覧される。

1936 ● 2・26事件。

猪熊弦一郎、小磯良平らは帝展改組の余波を受け、反官展の立場から「新制作派協会」を結成。

1937 ● 長谷川三郎、村井正誠、山口薫ら10名の会員により「自由美術家協会」結成。第1回展ではシュール、アブストラクトなどの新傾向の絵画が多数を占めた。

代絵画』出版。二人は1918年以来ピュリスムの運動を展開した。

ドイツ、マンハイムで「ノイエ・ザッハリッヒカイト」展。ゲオルグ・グロス、オットー・ディクスなど出品。

1929 ● ニューヨーク近代美術館開館。

ディエゴ・リベラ、メキシコ中央政府の壁画制作に着手。

1933 ● ドイツでヒットラーが政権を握る。ナチスの台頭によりバウハウスは閉鎖される。

1936 ● ニューヨーク近代美術館で「キュビズムと抽象絵画」展開催。

1937 ● ピカソ(ゲルニカ)制作を開始し、翌年のパリ万博で発表。

ミュンヘンを皮切りに、ナチス・ドイツによる「退魔芸術展」開催。表現主義、あるいはバウハウス関係者、さらにはマティス、ピカソをも含めた作品が良俗に反するとして「退魔芸術」として展示される。

1939-45 ● 第二次世界大戦。モンドリアン、シャガール、レジェ、ザッキン、エルンストなどヨーロッパ美術家の多くが戦禍を逃れてアメリカに渡る。

1930年代

1940年代

1941頃●ヘンドラは、スジャナ・クルトンなどをメンバーに、「ブルキス・フロント」(Pelukis Front)を結成。

バタヴィア・クンストクリン・ビルでインドネシアのアーティストによる最初の展覧会を開催。

1942●日本占領軍によって、美術教室を含む文化センターとして「啓民文化指導所」(プサット・クブダヤアン:Pusat Kebudayaan)がジャカルタに開設。吉岡憲(1915-1956)、戦争前からジャワに住みスジョヨノの指導もした矢崎千代二(1872-1947)、小野佐世男(1905-1954)、山本正(1915-1979)、そしてポスター作家の河野鷹思(1906-)などの日本人アーティストが指導したと言われる。

同時に、日本への政治的協力に対してスカルノ、モハマッド・ハッタ、そしてアーティストではスジョヨノ、アフアンディ、カルトノ・ユドクスモ、スロモ、ドゥラー、ヘンドラなどの独立主義者たちは、美術や文化活動を奨励する「プトゥラ」(PUTERA:民衆総力結集運動「Pusat Tenaga Rakyat」の略)を創始することを許される。最初の展覧会が5月に開催された。

1944●「プトゥラ」は解散させられ、スジョヨノは啓民文化指導所で美術を教えるよう求められる。

1945●8月17日、スカルノ、ハッタ、そして他の若い独立主義者によって独立が宣言される。

1945-49●対オランダ独立戦争。

1946●スジョヨノがマティウンに「SIM」(青年インドネシア芸術家「Seniman Indonesia Muda」の略)を設立。

アフアンディはジョグジャカルタに「ブルクムラン・スニルバ・マシャラカット」(大衆美術協会「Perkumpulan Seni Rupa Masyarakat」)を設立、同協会は後に「SIM」と合併する。

1947●アフアンディとヘンドラは「SIM」を脱退し、「ブルキス・ラヤット」(Pelukis Rakyat「大衆画家」の意)を設立する。

インドネシア大学バンドゥン校の視覚美術学部としてオランダ人講師によるドローイング・コースが始まる。

1941●芸術至上主義美学を象徴するホセ・ガルスシア・ウィリャによる《ダヴグライオンによる詩》。

レオノル・オロサ・ゴキンコのフィリピン固有のテーマとスタイルによる『アレ』傾向:開拓前への帰還』。

1942-45●第二次世界大戦において日本がフィリピンを占領。

1946●アメリカがフィリピンの独立を宣言。

1948●ブリータ・カラウ=レデスマが「フィリピン芸術協会(AAP)」を設立。

フランシスコ・ブエンカミによる《マヨン・コンチュルト》。

1940-41 ● フランス・タイ戦争における戦勝記念碑をピラスィーと学生たちが共同で制作。

1941 ● 文化省 (Ministry of Culture) と国立文化評議会 (the National Council for Culture) が創設される。

チット・ブアブットは大学卒業生として東京美術学校に留学し、南薫造 (文展作家で、ロンドンのロイヤル・アカデミーで学んだ) に油彩画、朝倉文夫に彫刻を学ぶ。1946年チットの帰国とともに日本スタイルの外光派表現が導入された。

ブア・ハリピタックは1942年からインドのシャンティニケタンにラビンドラナート・タゴールが創設したヴィスヴァバラティ大学に学び、シラバコーン大学で教えた後 (1947-54)、ローマに留学した (1954-56)。ブアはのちにタイの仏教画の保護と修復に専心した。

日本は、事実上抵抗のないままタイを侵略。

1943 ● プラニート・シラバカム学校 (美術学校) は「シラバコーン大学」になる。

1944 ● フェローチはタイに帰化し、名前をシラバ・ピラスィー (Silpa Bhirasri) と名のつた。

1948 ● ピラスィーは、ブア・ハリピタック、キエン・イムスィリ、パイトゥーン・ムアンソンブーンの作品を含め、ロンドンでタイ美術の展覧会を開催した。

1949 ● ピラスィーは、毎年開催される「全国美術展」(National Exhibition of Art) の第1回展を創始する。

1938 ● 国家総動員法の発令。

大日本陸軍従軍画家協会結成。

1939 ● 陸軍美術協会結成、藤田嗣治などが加わる。また第1回聖戦美術展など戦争記録画あるいは献納画の展覧会が開催される。

福沢一郎を中心にシュルレアリスム系の作家が集う「美術文化協会」結成。

1940 ● 「自由美術家協会」は、「自由」の名称が問題となり、「美術創作家協会」と改称させられる。

紀元二千六百年奉祝美術展開催、諸団体合わせて約730点が出品された。

1941 ● 福沢一郎、瀧口修造がシュルレアリスムと共産主義との関連から検査され、半年に渡り拘留。

松本竣介 (画家の像) を出品し、戦時における画家の存在を主張する。

美術雑誌の統廃合が進む。

太平洋戦争開戦。

1942 ● 陸・海軍が記録画制作のため、画家を戦地へ派遣。戦争記録画あるいは献納画の展覧会がふえる。

1943 ● 横山大観を会長に日本美術報国会結成、画家の一元組織化が進む。

松本竣介、鬘光などが「新人画会」を結成。

1944 ● 戦局の悪化に伴い制作用資材の統制が強まる。美術雑誌は「美術」一誌となる。

1945 ● 終戦。

宮田重雄「美術家の節操」をきっかけに、美術家の戦争責任問題が取りざたされる。

1946 ● 日本国憲法発布。

文部省主催第1回「日展」開催。

「日本美術会」結成、創立大会では美術家の戦争責任追求を決議。

多数の美術家、批評家を巻き込んだのリアリズム論争が以後4年にわたり行なわれる。

1947 ● 「日本美術会」主催「第1回日本アンデパンダン展」開催。

アブストラクトやシュール系の美術家は「日本アヴァンギャルド美術家クラブ」結成。また山下菊二らは「前衛美術会」結成。

1948 ● 花田清輝を中心とした「夜の会」に集う岡本太郎、桂ユキ、池田龍雄などが「アヴァンギャルド芸術研究会」を結成。

山本丘人、吉岡堅二などの日本画家により「創造美術会」結成。

八木一夫、辻晋堂らにより前衛陶芸集団「走泥

1945 ● 広島、長崎に原子爆弾投下。

フォートリエ戦時中に制作を進めた (人質) 連作をパリで発表。アンフォルメル源流となる。

1948 ● 大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国が相次いで建国し、南北朝鮮が分断する。

この頃からポップは、アクション・ペインティングを始める。

年代

インドネシア

フィリピン

1940年代

1948 ● オランダの財団である「STICUSA」(文化教育財団「Stichting voor Cultureel Samenwerking」の略)が文化活動を支援するために、アムステルダムに本部をジャカルタに現地事務所を設立。

インドネシア大学にあった視覚美術学部はバンドゥン工科大学に統合された。生徒として、スリハディ・スダルソノ、アフマッド・サダリ、モフタル・アピン、ブット・モフタル、A.D.ピロウスなど、講師としてリース・ムルダナー、シモン・アドミールなどがいた。

第1回全国文化会議をマゲランで開催。

1950年代

1950 ● 1948年から計画されていた「ASRI」(インドネシア美術アカデミー「Akademi Seni Rupa Indonesia」の略)がジョグジャカルタで創設される。生徒として、トゥルプス、スダルソノ、ストボ、ドゥラー、ジョコ・ベキッなどがいた。

「LEKRA」(大衆文化研究所「Lembaga Kebudayaan Rakyat」の略)が左翼系文学者によりジャカルタに設置された。

1954 ● 第2回サンバワロ・ピエンナーレにアフアンディ、クスナディ、ショリリンが出品。

1955 ● バンドゥン会議(第1回アジア・アフリカ会議)と同時に「New Indonesian Art and Classic and Modern Art」展が開催された。

1950 ● ヴィセンテ・マナンサラによる《スラムの聖母》。

フィリピン女子大学に美術学部が創設される。

1951 ● リディア・ヴィリャヌエヴァ=アルギーリャにより「フィリピン・アート・ギャラリー」(PAG)が創設される。

ヴィセンテ・マナンサラによる《シプニー》

1952 ● ナポレオン・アブエヴァによる大理石彫刻《カガンパン(実現)》。

1953 ● マニラ・インターナショナル・フェアのために、カルロス・フランシスコの壁画《フィリピン500年史》がパエテ村の美術家たちにより制作される。

1958 ● ギリェルモ・トレンティーノによるフィリピン大学のための壁画《奉仕》。

1960年代

1960年代 ● 大学卒業後、主としてアメリカなどの外国で学んでいた若い美術教師たちが帰国し始める。

1961 ● アリ・スミスにより若い芸術家のグループがババで結成される。

1963 ● 「LEKRA」の美術方針を攻撃する美術家によって「文化宣言」(Manifest Kebudayaan)が公布される。

1964 ● 「文化宣言」が、スカルノによって公然と批判される。「文化については議論がある。私の文化に対する立場はすでに明らかだ。狂った外国の文化は破壊し、我々自身の特質へと立ち返

1962 ● マヌエル・ロドリゲス・シニアが「フィリピン版画家協会」を設立。

1963 ● カルロス・フランシスコの壁画《マニラの歴史》がマニラ市庁舎のカティパナンホールに描かれる。

1964 ● ホセ・ホヤによる《ヒルズ・オブ・ニッコー》。

1968 ● アラセリ・ダンスとブレンダ・ファルードにより「フィリピン芸術教育者協会」が創設。

1969 ● フィリピン文化センター大劇場のタベストリーとしてヘルナンド・Rオカンボによる《起源(ジェネシス)》。

1954●チャールド・ニムサマーは初め、タイでシラパコーン大学を卒業し、50年代後半にはローマへ行き、1964年にはニューヨークのプラット・グラフィック・センターで働いた。

1955●この頃から、美術界においてイタリアへの給費留学生の帰国による影響が顕著になる。風俗画家による学校が目立つようになり、いくつかは在住の日本人、横田仁郎やムネ・サトミによって作られていた。

1956●サワディ・タンティスックは1960年までローマに滞在し、帰国後は「美術工芸学校」(Poh-Chang School of Arts and Crafts)の学長となる。

1957●マルクス主義の作家であるチット・プーミサックは、『人生のための芸術、人民のための芸術』(Shinlapa phua chiwit, Sinlapa phua prachachon)を出版。

ダムロン・ウォンウッパラートは1957年から61年までシラパコーン大学で、また1963年からはロンドンのスレード美術大学で学ぶ。1968年から翌年にかけてペンシルヴェニア大学、さらにニューヨークのコロンビア大学では美術史を学ぶ。

1960●すでに主要な画家として知られていたタウィー・ナンタクワーンは1962年までローマの美術アカデミーで学ぶ。

1960-90年代●毎年開催される「全国美術展」の作品選択は、ほぼ実際にシラパコーン大学の関係者によってなされ、大抵の出品者はシラパコーン大学の学生か教員であった。

1961●チェンボット王女により、若い美術家のための展覧会が、バンコク美術センターで開かれる。また翌年、王女はスワン・パッカド宮殿内に小さなギャラリーを開設する。

1962●タイ・モダンアートの父、シラパ・ピラスイ

社」結成。

1949●読売新聞社主催「第1回日本アンデパンダン展」開催。

東京美術学校、東京音楽学校が合併して東京芸術大学となる。

関西では三上誠、下村良之介ら日本画家により「パンリアル協会」結成。

1951●サンフランシスコ講和条約、同日日米安保条約が締結。

瀧口修造などが「実験工房」結成。

神奈川県立近代美術館開館。

1952●国立近代美術館開館。

1954●「具体美術協会」設立。

河原温く浴室」シリーズ発表。

1956●日本、国連へ加盟。

「世界・今日の美術展」が開催され、アンフォルメル作品が多数紹介され、翌年ミシェル・タビエが来日。以後アンフォルメルが大きな影響を与える。

1957●読売アンデパンダン展に多種の素材によるオブジェが氾濫し、河北倫明は「ロカビリー的狂躁」と呼ぶ。

日展運営が批判を招き、日展は社団法人となる。

福岡で菊畑茂久馬らが「九州派」結成。

1960●60年安保闘争、デモ隊による国会包囲。また三井三池争議が激化。

東野芳明が読売アンデパンダン展などに見られる廃品芸術やハプニング・イベントを「反芸術」と呼ぶ。また読売アンデパンダン展出品を契機に赤瀬川原平、荒川修作、篠原有司男らにより「ネオ・ダダリスト・オルガナイザーズ」結成。工藤哲巳、三木富雄も同グループの周辺にあった。

1963●高松次郎、赤瀬川原平、中西夏之が「ハイ・レッド・センター」結成。

1964●読売アンデパンダン展廃止。

1950●朝鮮戦争勃発。

1951●タビエによりパリで「激情の対決」展が組織され、アンフォルメル運動が明らかとなる。

1952●ジョン・ケージ、演奏者が4分33秒ピアノの前に座り、音をたてない曲《4分33秒》を発表。

1954●この頃からジャズパー・ジョーンズは、アメリカ国旗、標的などの記号を対象とした作品を制作、またロバート・ラウシェンバーグは個展で《レッド・ペインティング》を発表、ニューヨーク美術界に登場する。

1955●ドイツのカッセルでドクメンタ創設。インドネシアのバンドンでアジア・アフリカ会議。

1959●キューバ革命。ニューヨークでカブローによる「6部からなる18のハプニング」開催。この頃から、さまざまなパフォーマンス・イベントが行なわれる。

1960●イヴ・クライン、高い塀からダイビングする自身の姿の写真を発表。パフォーマンスの個人的な記録、コンセプト・チャール・アートの先駆ともなる。またクラインやティンゲリー、アルマンなどはヨーロッパにおける「ヌーボー・レアリズム」の作家として知られる。

1960年代初頭●ニューヨークでは、アンディ・ウォーホル、ロイ・リキテンスタインらを中心に漫画、俳優の写真、広告など日常のイメージを用いたポップ・アートが盛んになる。

1961●イギリスで「ヤング・コンテンポラリーズ」展開催、ティヴィット・ホックニーらが出品。

年代

1960年代

インドネシア

る。「文化宣言」を打ち倒せ、なぜなら「文化宣言」は革命を弱体化させるからだ……」。

1965 ● バリのデンパサールにあるウダヤナ大学の一部として美術アカデミーが作られる。

9月30日、いわゆる共産主義クーデターの失敗は、結果として広範囲にわたって処刑者と逮捕者を出した。ツウルプスは不可解にも撃たれ、バスキ・レソボウタはオランダに亡命した。ヘンドラ・グナワンは1978年まで、ジョコ・ベキッ、アムルス・ナタリヤ、パタラ・ルビス、そしてパティック作家のモハマッド・ハティまでもが監禁された。

「LEKRA」はインドネシア共産党とともに解体される。

1966 ● アフマッド・サダリ、A.D.ピロウス、ブット・モフタル、ボボ・イスカンダル、スリハティ・スダルソノ、モフタル・アピン、G.シダルタを含む「Grup Sebels Seniman Bandung (バンドン11人)」展が開催される。

1968 ● 現在の「IKJ」(ジャカルタ芸術大学「Institut Kesenian Jakarta」の略)の前身である「Lembaga Pendidikan Kesenian Jakarta (ルンバガ・プティディカン・クスニアン・ジャカルタ)」は美術とパフォーマンスの中心として「TIM」(ジャカルタ芸術センター:Taman Ismail Marzuki [タマン・イスマイル・マルズキ]の略)を設立し、そのオープニング・イベントとして大規模な絵画展を開催。

1970年代

1971 ● 「TIM」で最初のグラフィックの展覧会が開催される。

1973 ● ジャカルタにおいて、ダナルトによる最初のコンセプチュアル・アートが展覧された。

1974 ● 1月、(前年より続く)学生による日本製品ボイコット運動が激化して、暴動となる。学生のリーダーは逮捕された。

ジャカルタ・アーツ・カウンシル(ジャカルタ芸術評議会)による第2回ジャカルタ絵画ビエンナーレの選考に対し、ハルソノ、ボニョン・ムニ・アルティ、シティ・アディヤティ・スバダン、リス・プルワナ、ハルティ、D.A.ブランシ、イクラヌガラ、ダルヨノを含む、「黒い12月の声明」に署名した若い作家たちが抗議する。この抗議はジョグジャカルタでの「Nusantara - Nusantara (インドネシア・インドネシア)」展に出品した「ASRI」の学生に引

フィリピン

1970 ● ダビド・コレテス・メダリーヤによるキネテック彫刻と《バブル・マシン》の発表。

ハイメ・テ・グズマンの《ゴムブルザ》。

1971 ● エルアルド・カストリリョによるバラニャケ市ロヨラ霊園の《ピエタ》。

政治的な美術家のグループによる「ユナイテッド・プログレッシブ・アーティスト・アンド・アーキテクト(進歩的芸術家と建築家の連合会)」発足。

1972 ● フェルディナンド・マルコス大統領が戒厳令を施行。

19世紀の写真に基づいたベン・カブレラの《ララワン(肖像)》の展覧会。

1973 ● マヌエル・バルデモールのペンと紙による《バエティ》。

1976 ● 社会リアリスト・グループ「カイサハン(連帯)」の結成。メンバーには、エドガー・タルサン・

タイ

一死去。

1962-66 ●美術展が広く行なわれ、作品は外国人社会に売れただけでなくタイの上流階級によって保護された。

1963 ●タイの現代美術を取り上げた展覧会がロンドンのアルバイン・クラブ・ギャラリーで開催された。この頃から一時、ラーマ9世ブーミボン国王は画家として活動する(1963-65)。

1964 ●バンカピ・ギャラリーで、プラトゥワン・エムジャルーン、ソムチャイ・ワックナーティロやその他の画家のシュルレアリスム作品を展示する。
1964-69 ●タウン・グッチャニーがアムステルダム市立アカデミーで学ぶ。

1965 ●シラパ・ピラスィー・アート・センター財団評議会がタイの多くの抽象画家をも含めた「第1回国際美術展」(1st International Art Exhibition)を組織する。

1966 ●ダムロン・ウォンウッパラートがシラパ・エム・ギャラリーで「現代美術作家グループ」を結成した。そのなかには、プラトゥワン・エムジャルーン、チャン・セタンなどがいた。

1969 ●カモン・タッサナチャーリーがロサンジェルスに住む。

1970-71 ●パイブーン・スワクナットによるバンコクのモンティエン・ホテルのための壁画(の最初セット)が制作される。

1971 ●チャールド・ニムサマーがシラパコン大学の絵画、およびグラフィック・アート部門の学部長となる。

プラトゥワン・エムジャルーンが「ダルマ・グループ」を結成する。

タウン・グッチャニーの絵画作品が仏教徒の学生から神聖を汚すと酷評される。

TISCO(Thai Investment and Securities)がモダンアートの展覧会を始め、それらの作品のうち受賞作は後にTISCO のコレクションとなる。さらに展覧会は1974, 77, 81, 86年にも行なわれた。

1973 ●11月13日、学生と警察、軍隊との衝突

日本

国立西洋美術館で《ミロのヴィーナス》特別公開, 83万人が来館。

東京オリンピック開催。

1968 ●神戸須磨公園第1回現代彫刻展で関根伸夫が《位相一大地》制作。

東大紛争, 安田講堂占拠。

1969 ●東大, 日大を中心に学園紛争激化。各地の大学で封鎖解除のために機動隊が出動する。多摩美術大学では学生が本館をバリケード封鎖し, 同大学生を中心に「美術家共闘会議」が結成される。

1970 ●大阪万国博覧会開催。企業の経済力をバックに最新のエレクトロニクス技術を多用したイベントやパビリオンに多数の美術家が動員される。一方, 「万博破壊共闘会議」「安保万博粉砕共闘会議」など万博に反対する動きも活発であった。

中原佑介企画による「第10回日本国際美術展——人間と物質」が注目を集める。

東京国立近代美術館での「現代美術の一断面」展などにおいて李禹煥, 菅木志雄, 小清水漸など「もの派」の存在が顕著になる。

アメリカより第二次大戦中の戦争画を永久貸与として返還。

1972 ●沖繩復帰。札幌オリンピック。

1974 ●東京国立博物館で「モナ・リザ」展開催, 150万人の来館。

西欧

1963 ●ケネディ米大統領暗殺。

デュセルドルフで、ヨーゼフ・ボイスの招きでフルクサスの作家によるコンサート開催。

またナムジュン・パイクはボイスにより破壊されたピアノとテレビセットを用いビデオ・アートの展覧会を開く。

1965 ●アメリカ, ベトナムにおいて北爆開始。ニューヨーク近代美術館で「応答する眼」展開催。ヴィクトル・ヴァザリリ, ヨセフ・アルバースなどが出品し「オブ・アート」が広く認知される。

1966 ●中国で文化大革命始まる。

フランスでダニエル・ヒュランらが「B・M・P・T」結成。アメリカでは、マース・カニングハム, ジョン・ケージ, ラウシェンバーク, そして電子技術者による「EAT(Experiments in Art and Technology)」が結成され, 芸術と先端技術の統合が試行された。

1967 ●イタリアでの「アルテ・ポーヴェラ」の活動始まる。

ASEAN(東南アジア諸国連合)発足。

1968 ●フランス「5月革命」, バリでの学生デモが全国的なゼネストに発展。

ギルバート&ジョージ活動を始める。

1960年代後半 ●ドナルド・ジャッド, フランク・ステラらによるミニマル・アートが盛んになる。

アメリカやイギリスでは, ロバート・スミッソン, ウォルター・デマリア, リチャード・ロングなどによる大規模なアースワークが行なわれる。

ジョセフ・コスース, ヒューブラー, 河原温などがさまざまな形式によりコンセプチュアル・アートを展開。

1970 ●フランスで「シュポール・シュルファス」結成。

1972 ●「ドクメンタ5」でボイスは, 民主主義や芸術などについて一般の人々と100日間の連続討論を行なう。

1975 ●先進国首脳会議(サミット)開始。

1977 ●ポンピドゥー・センター開館。

1970年代後半 ●ニュー・バッド・ペインティング(アメリカ), 新表現主義(ドイツ), トランス・アバンギャルディア(イタリア)など各国で新たな絵画動向が台頭する。

1978 ●ニューヨークでジュリアン・シュナーベルが作品を発表。大反響を呼びニュー・(バッド・)ペインティングの旗手となる。

年代

1970年代

インドネシア

き継がれ、ここにはサクン、イ・グスティ・バグース、ウィジャヤ、ワルドヨ、S、スダリスマン、スアトマジ、アグスティヌス・スマルゴ、後に有名な文学者となったアグス・ティルマワンも含まれていた。

1975●8月、ソーシャル・リアリストとその他の批評家による「Gerakan Seni Rupa Baru Indonesia」(インドネシア・ニュー・アート・ムーブメント)が始まり、アニョール・スプロト、バクティアル・ザイヌル、パントウ・ステオ、ナニク・ミルナ、ムルヨト・ハルトヨ、B.ムニ・アルディ、ジム・スバンカット、ハルディ、デテ・エリ・スプリア、リス・ブルワナ、シティ・アディヤティ、F.X.ハルソノが加わった。

1976●バライ・スニルバ(「アート・ギャラリー」の意)がジャカルタに創設されるが、収蔵作品が増えることはなかった。アダム・マリク・コレクションのヘンドラ作品のように、いくつかの作品は他のコレクションから移されたが、後には空調もなく湿気の多い展示室となった。

1977●TIMにおいて「ニュー・アート・ムーブメントII」展が開催される。

ジャカルタ芸術評議会は、若いアーティストのためにピエンナーレを創設。

9月、ジョグジャカルタの若手美術家集団「Kepribadian Apa」(What is an Identity?)あるいは「PIPA」は、その批判精神の過剰な出品作によって、多種の素材・形態(マルチ・メディア)による展覧会を開催することができなかった。

1978●スハルト大統領の3選に対して学生が街頭デモを行なう。ジョグジャカルタのガジュマダ大学やバンドゥン工科大学は警官隊に占拠され、学生のリーダーたちは逮捕される。

1979●「ニュー・アート・ムーブメントIII」が開催される。ハルディは、自分自身の肖像を大統領の公式の服に合わせてプリントし《2001年のインドネシア大統領》と題した作品を出品、展覧会の後に投獄された。

学生たちはN.G.O.(非政府組織)との協力を始める。

1980年代

1981●アセアン絵画写真巡回展(ASEAN Traveling exhibition of Painting and Photography)が始まる。

1982●ジャカルタではこの年1年間に100もの数の展覧会が開催される。

1984●ジョグジャカルタにあったさまざまな学校が再編成され、インドネシア芸術大学(ISI)となり、そのなかにASRIも美術デザイン学部として併

フィリピン

フェルナンデス、バプロ・バエンス・サントス、レナート・アブラン、ニール・ドロリコン、アンティバス・デロターボ、ホセ・テンセ・ルイス、アル・マンリーケ、パボ・デ・アシスがいる。

イメルダ・カヒーペ=エンゲーヤによる「クニヌーノ(先祖)」シリーズ。

1981●ルイス・イー・ジュニア(ジュニー)の自然素材によるインスタレーション《木のもの》。

1982●フィル・デ・ラ・クルスによるエッチングとメゾチントの《クラマンバレーのbog王の奥方たち》。

1983●レナート・ハブランの《時の豊穡》。サンチャゴ・ボセの土地固有の自然素材によるインスタレーション《熱情と革命》。

タイ

を記録に残すための作品をプラトゥワン・エムジャールーンとチャン・セタンが制作した。

イデオロギー上の衝突により、学部長であるチャルード・ニムサマーは11人の講師をシラパコーン大学から追放する。

1974●ピラスィー近代美術研究所(Bhithasri Institute of Modern Art)が開館し、チュンボット王女により1972年に設立されていたセンターと合併する。この美術館は王女の亡くなった後、1988年に閉館された。

ガムチョーン・スーンボンシリを中心に、「アーティスト・フロント・オブ・タイランド」(Artists' Front of Thailand)を結成。これには多くのグループや、さまざまな美術館活動が包摂され、1950年代中頃から活動していたチット・プーミサクの「人生のための芸術」(Art for Life)の系列とも連合した。

1977●国立美術館(The National Gallery)が旧造幣局の建物のなかに開館。

1977-78●シラパコーン大学にタイ美術学科が創設される。

1978●この年を始めに80, 82, 83年にVane Groupの展覧会開催。

1979●「アーティスト・フロント」が第1回アンテナンダン展を開催する。この年から翌年にかけて版画家のキャンヤー・チャレンス・パンは京都を訪れる。

1981●アルフレッド・ボーリンがヴィジュアル・ダーマ・ギャラリー(Visual Dhamma Gallery)を開設。最初の展覧会はアンカーン・カラヤナボーンを取り上げた。

1983●タイ彫刻家協会が結成される。

1983-88●ヤナウィット・クンチャトーンが愛知県立芸術大学で学ぶ。

1984●詩人、画家であるワサン・スィティケートが

日本

1970年代●全国に公立美術館が設置され始め、また近代日本の美術家の回顧展が増える。

1984●明治美術学会設立。

1986●バリ、ボンビドゥーセンターで「前衛の日本1910-1970」展開催。

1987●この頃より日本人による絵画の高額購入が問題となる。

1988●東京都美術館他で「1920年代日本」展開催。

1989●昭和天皇崩御。平成と改元。

西欧

1980●イラン・イラク戦争。

1986●オルセー美術館閉館。

1988●高度に発達した電子技術に応用した芸術表現についての「第1回国際エレクトロニック・アート・シンポジウム」がオランダで開催。80年代以降、急速に発達したコンピューターなどの電子技術が芸術表現にも取り込まれ、またその発表も巨大企業の活動と関連した大規模な博覧会

年代

1980年代

インドネシア

合される。

1985●ジャカルタの「アンチョール・アート・マーケット・ギャラリー」における展覧会での出来事として、バスキ・アブドゥラー、スジヨノ、アフンディは1937年の「プルサギ」以来のインドネシア美術界の精神的な象徴的再統合として同じカンヴァスに描いた。

1987●「ニュー・アート・ムーブメントIV」が開催されるが、明らかにノスタルジックな理由から、数人の美術家はこのグループへの関心を失った。この展覧会は「パサラヤ、ドゥニア・ファンタシ」(PASARAYA, Dunia Fantasi「スーパーマーケット、ファンタジー・ワールド」)と呼ばれた。

1990年代

1991●アメリカ国内において「インドネシア近代美術展」が巡回される。

1993●殺害されたと言われる女性労働者マルシナを追悼するためにスラバヤで開催された、「Pameran untuk Marsinah」展(マルシナ追悼展)が警察によって中止させられる。

ジャカルタ・ビエンナーレにおけるスムサル・シアハンの華々しいインスタレーションが高い評価を受ける。

1994●芸術家や作家が表現の自由を求めて「インドネシアの覚書」に署名する。

1995●ジャカルタにおいて「非同盟諸国現代美術展」が開催される。

フィリピン

エドガー・フェルナンデスの《自由への探求》。

1985●ABAY(人民の芸術家)の設立。ジュリー・リュクによるフェミニスト彫刻《ピカソと私》。

1986●チャーリー・コー、ヌネルシオ・アルバラード、ノルベルト・ロルダンによってヒサヤの西ネグロス州において「ブラック・アーティスト・イン・エイジア(BAA)」が結成される。

レガスビの〈ジプニー〉シリーズがメトロポリタン美術館で展示。

ジョーイ・アヤラとポポング・ランデロによるミュージカル『シナリムバ』が上演され、土地固有の楽器と音楽形式への傾向が注目を集める。

1987●バギオ・アーツ・ギルド(BAG)の設立。ラモン・オルリーナによるガラス彫刻〈ナエサ〉シリーズ。

1989●ブレンダ・ファルドによる歴史と社会をテーマにした〈タロト〉シリーズ。

フィリピン文化センター内で制作したロベルト・ヴィリヤヌエヴァによるインスタレーション《生命の庭》。

タイ

彼の「ネオ・ダダ・マニフェスト」を発表する。
1984-87 ● チャラムチャイ・コソビバット、バン
ヤー・ウィチンタナサーンなどによるロンドン、ウ
インブルドンのブッパティッパ寺の壁画が完成
する。
1986-88 ● モンティエン・ブンマーがパリ国立高
等美術学院、パリ第8大学美術学部(サン・ド
ニ)へ留学。

1991 ● 国立クイーン・シリキット国際会議場が世
界銀行会議のためにチャロード・ニムサマーの
テーマ彫刻を完成させた。
1992 ● 「第1回チェンマイ・ソーシャル・インス
レーション」が開催される。
1993 ● モンティエン・ブンマーの彫刻がプリ
スベーンのクイーンズランド・アート・ギャラリーで
開催された第1回アジア・パシフィック現代美術
トリエンナーレに出品し、その所蔵作品となる。

日本

「アゲインスト・ネイチャー」展開催。その他「プ
ライマル・スピリット」(’90)、「Japan Art Today」
(’90)、「ゾーンズ・オブ・ラブ」(’91)など日本の
現代美術の海外での紹介が相次ぐ。

1990 ● 水戸芸術館現代美術センター開館。
1994 ● 「戦後日本の前衛美術」展(横浜美術
館)。

西欧

形式が主流となる。
1989 ● 中国、天安門事件。
ベルリンの壁崩壊。

1991 ● 湾岸戦争、多国籍軍がイラク攻撃。
独立国家共同体創設によりソ連解体。

*この年表は以下の各氏により執筆された原稿に基づき作成した。
ジョン・クラーク(インドネシア、タイ)
アリス・G.ギリエルモ(フィリピン)
柳沢秀行(日本、西欧)

Chronology

Compiled by

Yanagisawa Hideyuki (curator, The Okayama Prefectural Museum of Art)
Furuichi Yasuko (The Japan Foundation Asia Center)

Indonesia

1816

Dutch formally take over control of the Indonesian archipelago from the British.

1817

Sir Thomas Stamford Raffles published *The History of Java* in London.

1825-30

Java War against Dutch led by Prince Diponegoro.

1829

Raden Saleh, a north Javanese aristocrat, went to study painting in Holland, and travelled widely in Europe, as well as Algiers with Vernetin.

1851

Raden Saleh returned and did portraits and landscapes.

1902

De Bataviasche Kunstkring (The Batavian Art Circle) was established in the Dutch colonial capital of Batavia (later Jakarta).

1908

Dr. Wahidin Sudirohusodo and others founded the Budi Utomo Nationalist Movement.

1900s-1930s

Hindia Molek/Mooi-Indie (Beautiful Indies, a term of Soedjojono), painting favoured by Dutch and Javanese aristocrats prevalent. Artists: Abdullah Surio Subroto, Basuki Abdullah, Mas Pirngadie, and Wakidi.

1922

Taman Siswa (The Pupil's Garden) national education system established in Jakarta by Ki Hajar Dewantara. Among its early pupils were Rusli, Soedjojono, Basuki Resobowo, Abbas Alibasjah.

1923

Walter Spies arrived in Batavia and went to Bandung. The painter Rudolf Bonnet was in Bali from 1928.

1928

Sumpah Pemuda (Youth Oath) taken by nationalists in Jakarta of 'One Nation, One Country, One Language.'

1935

Cokorda Gede Agung Sukawati with Spies and Bonnet established Pita Maha in Bali.

1935-1939

International exhibitions were held annually at the Bataviasche Kunstkring. Works included those by Van Gogh, Rodin, Gauguin, Kandinsky, Chagall, Picasso, and others.

1937

PERSAGI: Persatuan Ahli-Ahli Gambar Indonesia (Union of Indonesian Painters) founded in Jakarta by Soedjojono and Agus Djaya, who reacted against painting of the Mooi-Indie.

1938

Affandi, Hendra Gunawan, and Barli established the Kelom Pok (Group of Five) in Bandung. Affandi later visited PERSAGI.

c.1941

Hendra founded Pelukis Front (Front Artists) which included Sudjana Kertonas a member.

First exhibitions of work by Indonesian artists by the Bataviasche Kunstkringen.

1942

Japanese occupiers established Keimin Bunka Shidosho (Pusat Kebudayaan, Centre for Direction in Culture and Enlightening the People) as a cultural center in Jakarta including art classes said to have been taught by Japanese artists Yoshioka Ken (1915-1956), Yazaki Chiyoji (1872-1947), who had been resident in Java before the war where he taught Soedjojono, Ono Saseo (1905-1954), an expressionist Yamamoto Tadashi (1915-1979), and a poster artist Kono Takashi (1906-). At the same time, in return for their political cooperation with the Japanese, Sukarno, Mohammad Hatta and the artists Soedjojono, Affandi, Kartono Yudhokusomo, Suromo, Dullah, and Hendra, were allowed to establish PUTERA: Pusat Tenaga Rakyat (Centre of Empowering the People) which promoted art and culture. The first PUTERA exhibition was in May.

1944

PUTERA was disbanded and Sudjojono was asked to teach art at Keimin Bunka Shidosho.

1945

August 17th, Independence was declared by Sukarno, Hatta and other young nationalists.

1945-1949

War of Independence against the Dutch.

1946

Soedjojono founded SIM: Seniman Indonesia Muda (Young Indonesian Artists) in Madiun.

Affandi founded Perkumpulan Seni Rupa Masyarakat (Association for People's Plastic Art) in Yogyakarta which later merged with SIM.

1947

Affandi and Hendra broke away from SIM and founded Pelukis Rakyat (People's Painters).

Dutch teacher training course in drawing begun as Visual Arts Department, University of Indonesia in Bandung.

1948

The Dutch foundation STICUSA: Stichting voor Cultureel Samenwerking (Foundation for Cultural Cooperation) was established to support cultural activities with headquarters in Amsterdam and a branch office in Jakarta.

The Visual Arts Department was integrated into ITB: Institut Teknologi Bandung. Artists included Srihadi Sudarsono, Ahmad Sadali, Mochtar Apin, But Mochtar, A.D. Pirous. Teachers were: Ries Mulder & Simon Admiraal; the returnee from Netherlands Barli Sasmitawinata.

First National Cultural Congress was held in Magelang.

1950

ASRI: Akademi Seni Rupa Indonesia (Indonesian Academy of the Visual Arts) founded in Yogyakarta, although planned from 1948. It included such artists as Trubus, Sudarso, Sutopo, Dullah, Djoko Pekik was a later graduate out of favour with the authorities. LEKRA: Lembaga Kebudayaan Rakyat (Institute of People's Culture) founded by leftist writers in Jakarta.

1954

Affandi, Kusnadi, and Sholihin exhibited at the Second Sao Paolo Biennale.

1955

Exhibitions of "New Indonesian Art and Classic and Modern Art" held at time of Bandung Conference.

1960s

Young art teachers begin returning from post-graduate studies abroad, chiefly in U.S.A.

1961

Young Artists' Group founded by Ari Smith in Bali.

1963

Manifest Kebudayaan (Cultural Manifesto) issued by artists attacking the art line of LEKRA.

1964

Manifest Kebudayaan denounced by Sukarno: "There is a debate on culture. My stance on culture is already clear. Destroy all the crazy foreign cultures. Return to our own character. Destroy Manikebu (Cultural manifesto) because Manikebu weakens the revolution..."

1965

Academy of Art formed as part of Universitas Udayana, Denpasar, Bali.

September 30th, The failure of an alleged Communist coup, followed by a successful military countercoup resulted in widespread executions and imprisonments. Trubus was shot mysteriously and Basuki Resobowo went to exile in Holland. Those detained included Hendra Gunawan (until 1978), Djoko Pekik, Amrus Natalysa, Batara Lubis, and Mohamad Hadi, a batik painter from Solo. LEKRA was dissolved along with the Indonesian Communist Party.

1966

Grup Sebelas Seniman Bandung (Group of Eleven Bandung Artists) exhibited including Ahmad Sadali, A.D. Pirous, But Mochtar, Popo Iskandar, Srihadi Soedarsono, Mochtar Apin, and G. Sidharta.

1968

Lembaga Pendidikan Kesenian Jakarta, now IKJ: Institut Kesenian Jakarta (Jakarta Academy of Art) founded at the art and performance centre TIM: Taman Ismail Marzuki and included a large painting festival as its opening event.

1971

The first graphics exhibition was held at TIM.

1973

Danarto exhibited first conceptual art environment in Jakarta.

1974

January, Student boycott of Japanese products turned into riot when some agents provocateurs said to have been paid by the Army burnt Japanese cars in Tanjung Priok harbour area of Jakarta. Student leaders were arrested and some major newspapers and magazines anned.

Jakarta Arts Council selections for the second Jakarta Biennial criticized by younger artists who sign the Desember Hitam (Black December) Manifesto, including Harsono, Bonyong Muni Ardhi, Siti Adiyati Subangun, Ris Purwana, Hardi, D.A. Peransi, Ikranegara, Daryono.

These ASRI students were forced to apologize to the director of ASRI but most were later expelled. This was followed by the "Nusantara-Nusantara" (Archipelago-Archipelago) Exhibition in Yogyakarta of students from ASRI including Samikun, I Gusti Bagus Widjaja, Wardoyo S., Sudarisman, Suatmaji, Agustinus Sumargo, and Agus Derman T. did not apologize, was expelled and later became a famous writer.

1975

August, Gerakan Seni Rupa Baru Indonesia (New Art Movement) of social realists and other critics began including: Anyool Subroto, Bachtiar Zainoel, Pandu Sudewo, Nanik Mirna, Muryoto Har-

toyo, B. Munni Ardhi, Jim Supangkat, Hardi, Dede Eri Supria, Ris Purwana, Siti Adiyati, F.X. Harsono.

1976

Balai Seni Rupa (Art Gallery) established in Jakarta, but never funded. Several works transferred from other collections such as by Hendra from the Adam Malik collection. later show marked deterioration in non-air conditioned and damp galleries.

1977

“Gerakan Seni Rupa Baru II” (New Art Movement II) Exhibition held at TIM.

Jakarta Arts Council established a Biennial for younger artists. September, Young artist group in Yogyakarta Kepribadian Apa (What is an Identity?) or PIPA had their multi-media exhibition prevented from opening because of the works’ mockery of national figures and excesses of national development.

1978

Students demonstrated publically against re-appointment of Suharto as President. Universitas Gajah Mada (Yogyakarta) and Institut Teknologi Bandung were occupied by police, student leaders arrested, and some newspapers were banned.

1979

“Gerakan Seni Rupa Baru III” Exhibition. The artist Hardi printed his self-portrait in a formal presidential costume as President Indonesia 2001, and was jailed after the exhibition. Students begin to cooperate with Non Governmental Organizations.

1981

Annual Exhibition of ASEAN Painting and Photography was begun.

1982

One hundred held exhibitions in Jakarta this year.

1984

Various bodies in Yogyakarta reconstituted as ISI: Institut Seni Indonesia with a Faculty of Plastic Arts and Design.

1985

At an art exhibition stunt in the Ancol Art Market Gallery in Jakarta, Basuki Abdullah, Soedjojono, and Affandi painted on the same canvas in symbolic reunification of the art world split since PERSAGI in 1937.

1987

“Gerakan Seni Rupa Baru IV” was held, apparently for nostalgic reasons, with several artists having lost interest in the group. The exhibition was called “PASARAYA, Dunia Fantasi” (Supermarket, fantasy world).

1991

“Modern Indonesian Art - Three Generations of Tradition and Change 1945-1990” exhibition held in the U.S.A.

1993

“Pameran untuk Marsinah” exhibition, held to commemorate the murdered woman union spokesperson Marsinah, was closed by police in Surabaya.

Semsar Siahaan’s spectacular installation work at Jakarta Biennale given star treatment by media.

1994

Artists and writers sign the “Memorandum Indonesia” calling for freedom of expression.

1995

“Contemporary Art of the Non-Aligned Countries 1995” exhibition held in Jakarta.

The Philippines

1521

Beginning of Spanish Colonization.

1594

Printing of the first catechism, *La Doctrina Cristiana en la lengua espanola y tagala*, in Spanish and Tagalog, using the xylographic method with an engraving of Saint Dominic on its cover.

c. 1821

Damian Domingo founded the first art, the Academia de Dibujo y Pintura (Academy of Design and Painting).

1880

Portrait of the *Quiason Family* by Simon Flores y de la Rosa.

1884

Madrid Exposition in which Juan Luna's *Spoliarium* and Felix Resurreccion Hidalgo's *virgineg cristianas Expuestas al Populacko* won first gold medal and silver medal respectively. Mariano Madrinan's sculpture won in an exposition.

1887

National hero José Rizal's first novel *Noli Me Tangere* (Touch Me Not).

1891

Rizal's second novel *El Filibusterismo* (Subversion).

1892

Portrait of Soterania Puson y Quintos de Ventanilla by Dionisio de Castro in the miniaturist style.

1896

The Philippine Revolution against Spain.

1898-1945

The Treaty of Paris in which Spain cedes the Philippines to the United States.

The American Colonial Period.

1909

Opening of the School of Fine Arts under the University of the Philippines.

1915

Fernando Amorsolo's *Portrait of Fernanda de Jesus*.

1917

Francisco Santiago's kundiman, *Anak Dalita* (Child of Poverty).

1918

Construction of Legislative (Old Congress) Building designed by Juan Arellano and Antonio Toledo.

1928

Victorio Edades pioneering modernist exhibit at the Philippine Columbian Club, including *The Builders* and *The Sketch*.

1930

Opening of the School of Architecture at the University of Santo Tomas with Edades as director.

1931

Inauguration of the Manila Metropolitan Theater designed by Juan Arellano in the Art Deco style.

1933

Bonifacio Monument in Caloocan by Guillermo Tolentino.

1938

Galo B. Ocampo's *Brown Madonna*.

1941

Jose Garcia Villa's *Poems by Doveglion* typifying art-for-art's-sake aesthetics.

1941

Ballet "Trend: Return to Native" with native themes and styles by Leonor Orosa-Goquingco.

1942-1945

The Japanese occupation of the Philippines during World War II.

1946

The United States declares Philippine Independence.

1948

Founding of the Art Association of the Philippines by Purita Kalaw Ledesma; Francisco Buencamino's *Mayon Concerto*.

1950

Vicente Manansala's *Madonna of the Slums*.

Opening of the School of Fine Arts of the Philippine Women's University.

1951

Founding of the Philippine Art Gallery by Lydia Arguilla. Vicente Manansala's *Jeepneys*.

1952

Napoleon Abueva's *Kaganapan* (Fulfillment), sculpture in marble.

- 1953
Carlos Francisco's mural, *Five Hundred Years of Philippine History* for the Manila International Fair, executed in wood by Paete artists.
- 1958
Guillermo Tolentino's *Oblation* for the University of the Philippines.
- 1962
Founding of Philippine Association of Printmakers by Manuel Rodriguez Sr.
- 1963
Carlos Francisco's mural of the *History of Manila* at the Katipunan Hall of Manila City Hall.
- 1964
Jose Joya's *Hills of Nikko*.
- 1968
Founding of the Philippine Art Educators Association by Araceli Dans and Brenda Fajardo.
- 1969
Hernando R. Ocampo's *Genesis* design made into tapestry for the Main Theater of the Cultural Center of the Philippines.
- 1970
David Cortez Medalla's kinetic sculpture and *Bubble Machine*. Jaime De Guzman's *Gomburza*.
- 1971
Eduardo Castrillo's *Pieta* in Loyola Memorial Park, Paranaque. Founding of Nagkakaisang Progresibong Artista at Arkitekto (United Progressive Artists and Architects), a group of political artists.
- 1972
Declaration of Martial Law by Pres. Ferdinand Marcos. Ben Cabrera's *Larawan* (Portrait) exhibit based on nineteenth century photographs.
- 1973
Manuel Baldemor's *Paete I* in pen-and-ink on paper.
- 1976
Founding of the Kaisahan social realist group including Edgar Fernandez, Pablo Baens Santos, Renato Habulan, Neil Doloricon, Antipas Delotavo, Jose Tence Ruiz, Al Manrique and Papo de Asis. Beginning of Imelda Cajipe-Endaya's *Ninuno* (Forefathers) print series.
- 1981
Luis Yee Jr. (Junyee)'s installation *Wood Things* made of organic materials.
- 1982
Fil de la Cruz's *The Wives of Datu Bog of Kulaman Valley*, etching and mezzotint.
- 1983
Renato Habulan's *Kagampan* (Fullness of Time) Santiago Bose's installation *Pasyon and Rebolusyon* (Passion and Revolution) of indigenous and organic materials.
- 1984
Edgar Fernandez's *Hanap ay Laya* (Quest for Freedom).
- 1985
Founding of ABAY (Artista ng Bayan) (People's Artists); Julie Lluch's *Si Picasso at Ako* (Picasso and Me), one of her feminist sculptures.
- 1986
Founding of Black Artists in Asia (BAA) in Negros Occidental in the Visayas by Charlie Co, Nunelucio Alvarado and Norberto Roldan. Legaspi's *Jeepney* Series exhibited at the Metropolitan Museum. Musical Sinalimba by Joey Ayala and Popong landero, marking the trend in indigenous musical instruments and forms.
- 1987
Founding of the Baguio Arts Guild (BAG). Ramon Orlina's *Naesa* series of glass sculpture.
- 1989
Brenda Fajardo's Tarot Series of historical and social content. Roberto Villanueva's installation *Umat ti Biag* (Garden of Life) on the grounds of the Cultural Center of the Philippines.

Thailand

1851

Accession of Rama IV, King Mongkut. (-1868)

A variety of visual techniques adopted from European prints in temple murals: aerial perspective, one-point perspective, atmospheric realism.

1856

King Mongkut received photographs and engravings of American scenes from U.S.A.'s President Pierce, later used as references by painter Khrua in Khong for royal temple murals. Also received a camera from Queen Victoria and portrait busts from Emperor Napoleon III.

1863-1868

Thai sculptor Luang Theprojana did portrait sculpture of King Mongkut from life, the first portrait from life of a Thai monarch.

1868-1910

A variety of late Victorian and Salon styles in painting sculpture and decorative arts were introduced by Chulalongkorn.

1887

Picture competition held on assigned poetic themes.

1897

King Chulalongkorn's first visit to Europe. Accompanied by court painter Phra Soraklikhit, trained in oils.

1904

Cesare Ferro from Turin became court painter.

1907

King Chulalongkorn's second visit to Europe, when he posed for a portrait by Carolus-Duran. Phra Soraklikhit also went and returned later in 1910.

Italians artists were hired to construct and decorate Ananta Samakhom Throne Hall, including fresco painter Galileo Chini.

1910s-1930s

Increasing nationalist subject matter in arts.

1912

Krom Sinlapa (Department of Fine Arts) founded.

1913

Rongriani Poh-Chang (School of Arts and Crafts) founded.

1920

Art competition held for amateurs at Phiyathai Palace by King Vajravudh.

1923

Corrado Feroci (1892-1962), a sculptor (Professor, Academy of Fine Arts, Florence, 1914-1923) came to Thailand, appointed sculptor to Royal Fine Arts Department in 1924.

1930-31

Artisanal followers of Prince Naris painted *Ramakhien* (Ramayana) series at the Royal Chapel, Grand Palace.

1933

Feroci drafted the curriculum for Ronrien Praneetsilpakam (School of Fine Arts). Teachers included Phra Sarotrataniman, who had studied architecture in Liverpool, Phra Soraklikhit, and Khun Patiphakphimlikhit (Pleng Traipin) who had absorbed Whistler/Sargent stylistic mannerisms during twenty years in Europe. In 1937 the name was changed to Ronggrien Silpakorn Pakachang until 1943.

1933-35

Luang Wichitwatakan was acting Director, 1935-42 Director, of Krom Sinlapa. In 1932 Luang Wichitwatakan had published a book on Mussolini.

1937

Thailand among 32 countries exhibiting at "Pan-Pacific Peace Museum Exhibition" at Nagoya.

Krom Sinlapa started the fine arts journal *Silpakorn* (Fine Arts). First students graduated from the School of Fine Arts.

1939

Siam was renamed Thailand.

1940-41

Victory Monument commemorated Franco-Thai War.

1941

Ministry of Culture and the National Council for Culture were established. Jitr Buabusaya sent as post-graduate student to Tokyo Art Academy to study oils with Minami Kunzo (Bunten painter who had studied at Royal Academy in London) and sculptor Asakura Fumio. 1946 Jitr introduced Japanese-style pleinairism on his return.

Fua Hariphitak went to study at Santiniketan under Nandal Bose and Binode Bihari Mukherjee and was interned as enemy alien in 1942. He later taught at Silpakorn University (1947-1954) and studied in Rome (1954-1956). Fua later gave up painting and worked as a conservator and restorer.

Japanese invaded Thailand virtually unopposed.

1943

School of Fine Arts became Silpakorn Mahawithayalay (University of Fine Arts).

1944

Feroci became Thai citizen with name Silpa Bhirasri.

1948

Feroci exhibited Thai art in London including works by Fua Hariphitak, Khien Yimsiri, Paitun Muangsomboon.

1949

Bhirasri initiated first annual National Exhibition of Art.

1954

Chalood Nimsamer was first Thai to graduate from Silpakorn University, in the late 1950s he went to Rome; and in 1964 worked at Pratt Graphic Center, New York.

1955

Influence of returnees from Italian studentships became evident in art world.

Bangkok Klong A school of genre painters became prominent. Some associated with Japanese residents Satomi Mounet, and Yogota Niro.

1956

Sawasdi Tantisuk went to Rome until 1960, and on return became Director of Poh-Chang School of Arts and Crafts.

1957

The marxist writer Jit Phumisak published *Sinlapa phua chiwit*, and *Sinlapa phua prachachon* (Art for Life; Art for the People). Damrong Wong-upparaj was at Silpakorn University (1957-1961), and from 1963 studied at Slade School, London. From 1968-69 he studied at University of Pennsylvania, followed by Art History at Columbia University, New York.

1960

Tawee Nandakwang, already recognised as major painter went to Academy of Fine Arts in Rome until 1962.

1960s-1990s

Staff of Silpakorn University were effectively in control of selection for annual National Exhibition of Art, most exhibitors were students or staff from Silpakorn University.

1961

Young Artists Exhibition opened by Princess Chumbhot at Bangkok Art Centre, Makkasan Circle signals onset of art boom and court approval of modern art.

1962

Bhirasri dies.

Princess Chumbhot opened a small gallery at Suan Pakkad Palace.

1962-66

Wide range of exhibitions sold to foreign community but also patronized by Thai elite.

1963

Contemporary Thai Art exhibition held at the Alpine Club London. Rama IX King Bhumphipol was active as a painter 1963-65.

1964

Bankapi Gallery showed surrealist works by Pratuang Emjaroen, Somchai Watthanadilok and others.

1964-69

Thawan Duchanee studied at Rijksacademie voor Beeldende Kunsten, Amsterdam.

1965

Board of Silpa Bhirasri Art Centre Foundation organized First International Art Exhibition including many Thai abstractionists.

1966

Damrong founded Contemporary Artists Group at Patumwan Gallery. Group which included Pira Pathanapiradej, Pratuang Emjaroen, Tang Chang.

1969

Kamol Tassananchalee became a resident in Los Angeles.

1970-71

First set of murals for Montien Hotel in Bangkok by Paiboon Suwannakudt.

1971

Chalood Nimsamer became acting Dean of Faculty of Painting, and Graphic Arts at Silpakorn University.

Pratuang Emjaroen founded Dharma Group.

Paintings by Thawan Duchanee criticized as sacrilegious, slashed by Buddhist students.

TISCO (Thai Investment and Securities) began to exhibit modern art which it later collected: it organized further exhibitions in 1974, 1977, 1981, 1986.

1973

November 13, works by Pratuang Emjaroen, Chang Se Tang commemorated student clashes with police and military.

Ideological and personality clashes led acting Dean Chalood Nimsamer try to expel eleven instructors from Silpakorn.

1974

Bhihasri Institute of Modern Art established and merged with the earlier centre set up in 1972 by Princess Chumbhot. The Institute closed in 1988 after her death.

Artists' Front of Thailand, chairman Kamchorn Soongpongsri,

formed. It was involved in many group and mass art activities, generally associated with 'art for life' line of Jit Phumisak from mid-1950s.

1977

The National Gallery (of Art) established in old mint building.

1977/78

Department of Thai Art opened at Silpakorn University.

1978

Exhibitions of the Vane Group (1980, 1982, 1983).

1979

November, Artists' Front organized First Open Art Exhibition with free submission.

1979-80

Print artist Kanya Charensupkul visited Kyoto.

1981

Alfred Pawlin opened Visual Dhamma Gallery with exhibition of Angkarn Kalayanapongsa.

1983

Thai Sculptor Association formed.

1983-88

Yanawitya Kunchaethong studied at Aichi Prefectural Fine Arts University, Nagoya.

1984

Poet-painter Vasan Sithiket published his "Neo-Dada Manifesto".

1984-87

Chalermchai Kositpipat, Panya Vijnthanasarn and others completed murals at Wat Buddhapadipa, Wimbledon, London.

1986-88

Montien Boonma studied sculpture at Ecole Nationale Supérieure des Beaux-Arts, Université de Paris-VIII, St. Denis.

1991

Queen Sirikit National Convention Centre completed for World Bank/IMF Convention with theme sculpture by Chalood Nimsamer.

1992

The 1st "Chiang Mai Social Installation" exhibition held at Chiang Mai.

1993

Sculpture by Montien Boonma among works purchased after the 1st Asia-Pacific Triennale of Contemporary Art in Brisbane.

Japan

1799

Shiba Kokan publishes *Seiyo Gadan* (discussion of Western painting), advocating the importance of objective, realistic depiction in painting.

1861

Gagaku-kyoku (Section of Painting) established in the Bansho Shirabesho (Western documents office) for the study of Western painting.

1868

Boshin Civil War. Imperial forces defeat the shogunate. Edo is renamed Tokyo. The emperor moves from Kyoto to Tokyo and the Meiji period begins.

1876

Kobu-bijutsu-gakko (Art School Attached to the Technical College of Engineering) opened. Antonio Fontanesi in painting and Vincenzo Ragusa in sculpture brought from Italy as instructors.

1882

Ernest Fenollosa gives lecture (later translated and published as *Bijutsu Shinsetsu* (new theory of art) advocating restoration of traditional Japanese painting.

1889

Meiji Constitution adopted.
Tokyo-bijutsu-gakko (Tokyo School of Fine Arts) begins classes in Japanese-style painting, wood carving, and crafts; there is no Western-style painting course. Western-style painters found the Meiji-bijutsu-kai (Meiji Fine Arts Society). Members include Koyama Shotaro, Asai Chu, Matsuoka Hisashi, and Yamamoto Hosui.

1893

Kuroda Seiki, who has studied under Raphaël Collin in France, returns to Japan.

1896

Western-style painting course instituted at Tokyo-bijutsu-gakko (Tokyo School of Fine Arts) to be taught by Kuroda Seiki and others. Kuroda and Kume Keiichiro form the Hakuba-kai (White Horse Society).

1898

Okakura Tenshin, forced to resign as director of Tokyo-bijutsu-gakko, and found Nihon-bijutsu-in (Japan Art Institute).

1902

Taiheiyoga-kai (Pacific Group of Western-style Painting) holds first exhibition. Becomes an important Western-style painting

organization in rivalry with the Hakuba-kai.

1904

Russo-Japanese War begins.

1907

First Bun-ten (Ministry of Education Art) exhibition.

1910

Takamura Kotaro writes article "Green Sun" for the magazine *Subaru*, pleading for an expressionistic approach to art which respects the individuality of the artist. Literary journal *Shirakaba* founded.

1912

Meiji Emperor dies. Taisho period begins. Fusain-kai (Fusain Society) organized by Takamura Kotaro, Kishida Ryusei, Yorozu Tetsugoro, and others.

1914

Nika-kai (Nika Society) organized in opposition to the Bun-ten. Yokoyama Taikan, Hishida Shunso, and Shimomura Kanzan participate in reorganized In-ten (Japan Art Institute) commemorating anniversary of death of Okakura Tenshin.

1918

Tsuchida Bakusen, Murakami Kagaku found Kokuga-sosaku-kyokai (Society for Creating National Style of Painting) at Kyoto.

1919

Bun-ten reorganized as Tei-ten (Imperial Fine Arts Academy). First exhibition held.

1920

Sharp increase in number of Japanese artists going to Paris. Miraiha-bijutsu-ka-kyokai (Association of Futuristic Artists) organized by Fumon Satoru and others. The self-styled "father of Russian Futurism," David Burliuk, arrives in Japan and influences avant-garde artists.

1922

Fujita Tsuguharu (Leonard Foujita) elected a juror of the Salon d'Automne in Paris.

1923

Great Kanto Earthquake. First exhibition of group Akushon (Action) formed by group of progressive young artists from the Nika Society, including Nakagawa Kigen, Yabe Tomoe, and Koga Harue. Murayama Tomoyoshi returns from Berlin, advocating "intentional constructivism," and becomes leader of group MAVO.

1924

Young avant-gardists, mainly from Action and MAVO, come

together to form Sanka. They present exhibitions and performances, for example, "Gekijo-no-Sanka" (Theater Sanka), but disband after a short time.

1926

Taisho emperor dies. Showa era begins.

1930 nen-kyokai (the 1930 Association) formed with Saeki Yuzo, Maeta Kanji, Satomi Katsuzo and others.

1928

First House of Representatives election under new universal manhood suffrage law. Roundup of communists under Peace Preservation Law.

1929

New York stock market collapses in October triggering world-wide depression.

Fujita Tsuguharu returns to Japan. Nihon-puroretaria-bijutsu-ka-domei (Japan League of Proletarian Artists) founded.

1930

Ohara Art Museum opens. Dokuritsu-bijutsu-kyokai (Association of Independent) organized (with roots in the 1930 Association). The name implies independence from French art as well as from previous Japanese art organizations.

1931

Manchurian Incident.

Kuniyoshi Yasuo returns to Japan from America for a brief period. Other Japanese artists active in America at this time include Ishigaki Eitaro and Kitagawa Tamiji.

During this period many young artists gather in rented studios in the Ikebukuro area and form numerous small groups.

1932

"Paris-Tokyo New Art" exhibition introduces new French trends including Purism and Surrealism.

1934

Exhibition of Fukushima Shigetaro's collection including works by Derain, Rouault, and Picasso.

1936

February 26th Incident.

Inokuma Genichiro, Koiso Ryohei, and others found the Shinseisaku-kyokai (Shin-seisaku-School Association) in protest against government-sponsored exhibitions after the reorganization of Tei-ten.

1937

Jiyuu-bijutsu-ka-kyokai (Association of Free Artists) founded including Hasegawa Saburo, Murai Masanari, and Yamaguchi Kaoru. Many new styles seen at first exhibition, Surrealism and abstraction.

1938

National Mobilization Law promulgated.
Imperial Army Artists Association formed.

1939

Army Art Association formed. Joined by Fujita Tsuguharu and others. First "Seisen-bijutsu-ten (Sacred War Art Exhibition)" showing documentary paintings of the war and paintings donated to the war effort. Bijutsu-bunka-kyokai (Association of Art and Culture) formed by Surrealist artists led by Fukuzawa Ichiro.

1940

Word "free" in name of Jiyuu-bijutsu-ka-kyokai called into question. Name changed to Bijutsu-sosaku-ka-kyokai (Association of Art Creators').

Exhibition commemorating two thousand six hundred years since the mythical founding of the Japanese Empire. 730 works by artists from all groups included.

1941

Fukuzawa Ichiro and Takiguchi Shuzo arrested and imprisoned for six months because of connections between Surrealism and Communism. Matsumoto Shunsuke shows *Gaka-no-zo* (Portrait of the Artist), declaring the importance of the artist's individual existence even in wartime.

Art magazines are consolidated or abolished.
Pacific War begins.

1942

Artists sent to battlefields by the Army and Navy to make documentary paintings. Growing number of exhibitions of paintings documenting the war or donated to the nation.

1943

All artists brought into one large organization, the Japan Patriotic Art Association with Yokoyama Taikan as director. Shinjinga-kai (New Painters' Association) formed by Matsumoto Shunsuke, Ai Mitsu and others.

1944

Stronger controls on art materials as the war situation worsens. All art magazines consolidated into one, *Bijutsu*.

1945

War ends. Miyata Shigeo's "Bijutsuka no Sessō" (integrity of artists) provokes debate over war responsibility among artists.

1946

Postwar constitution adopted.
First Nitten exhibition sponsored by the Ministry of Education. Nihon-bijutsu-kai (Japan Art Association) formed. Proposal to investigate war responsibility of artists adopted at organizing meeting.

Numerous artists and critics involved in debate over realism which goes on for four years.

1947

"First Japan Independent Exhibition" sponsored by Nihon-bijutsu-kai.

Abstract and Surrealist artists form Nihon-Avant-Garde Bijutsu-ka-kurabu (Japan Avant-Garde Artists' Club). Yamashita Kikuji and others form Zenei-bijutsu-kai (Avant-Garde Art Society.)

1948

Avant-Garde geijutsu-kenkyu-kai (Avant-Garde Art Study Group) formed by Okamoto Taro, Katsura Yuki, Ikeda Tatsuo and others who have been gathering for (Evening Meetings) with Hanada Kiyoteru.

Sozo-bijutsu (Creative Art Society) formed by a group of Japanese-style painters including Yamamoto Kyujin and Yoshioka Kenji. Sodeisha (Earthworm's Footprints Group), an avant-garde pottery group formed by Yagi Kazuo, Tsuji Shindo, and others.

1949

"First Japan Independent Exhibition" sponsored by the Yomiuri Shimbun newspaper.

Tokyo School of Fine Arts and Tokyo School of Music combined to form Tokyo University of Fine Arts and Music.

Pan-riaru-kyokai (Pan Real Art Association) formed by Kansai region Japanese-style painters Mikami Makoto, Shimomura Ryonosuke and others.

1951

San Francisco Peace Treaty and U. S.-Japan Security Treaty concluded on the same day.

Jikken Kobo (Experimental Workshop) started by Takiguchi Shuzo and others.

The Museum of Modern Art, Kamakura, opens.

1952

The National Museum of Modern Art, Tokyo, opens.

1954

Gutai-bijutsu-kyokai (Gutai Group), established.
Kawara On shows his *Bathroom* series.

1956

Japan joins the United Nations.

"World Art Now" exhibition introduces numerous Informalist works and the critic Michel Tapié visits Japan the following year. (Art) Informel becomes highly influential.

1957

Objects made of unusual materials proliferate at "The Yomiuri Independent Exhibition." Kawakita Michiaki calls the phenomenon "Rockabilly madness."

Criticism of Nitten management leads to reorganization as a private corporation.

Kyushu-ha (Kyushu faction) organized in Fukuoka by Kikuhata Mokuma and others.

1960

Demonstrations against the U.S.-Japan Security Treaty. Protesters surround the Diet building. Mitsui Mitsuike Coal Mine dispute. Tono Yoshiaki uses term Han-geijutsu (anti-art) to describe assemblages of found objects seen at the Yomiuri Independent exhibitions. Akasegawa Genpei, Arakawa Shusaku, and Shinohara Ushio, all involved in the Yomiuri Independent, form the Neo-Dadaism Organizers. Kudo Tetsumi and Miki Tomio are loosely affiliated with this group.

1963

Hi Red Center, composed of Takamatsu Jiro, Akasegawa Genpei, and Nakanishi Natsuyuki.

1964

The Yomiuri Independent discontinued.

Venus de Milo shown at National Museum of Western Art, draws 830,000 visitors.

Olympics held in Tokyo.

1968

Sekine Nobuo makes *Phase-Earth* at "First Biennale of Kobe at Suma Detached Palace Garden: Contemporary Sculpture Exhibition," a source for the Mono-ha movement.

Students occupy Yasuda Hall at the Tokyo University.

1969

Student riots intensify, especially at the Tokyo University and Nihon University. Riot police called in to close universities and expel protesters. Students barricade the main building at Tama Art University. Tama students become leading force in Bijutsuka-kyoto-kaigi (Artists' Joint-Struggle Council.)

1970

International exposition "EXPO '70" in Osaka. Many artists help design pavilions and events with latest electronic technology and financial backing from corporate sponsors. Expo protested by Expo Banpaku-hakai-kyoto kaigi (Sabotage Joint-Struggle Council) and Anpo-banpaku-funsai-kyoto-kaigi (Joint-Struggle Council for Smashing Security Treaty)

"Tenth Tokyo Biennale: — Between Man and Matter" guest curator Nakahara Yusuke.

"Aspects of New Japanese Art" at the National Museum of Modern Art, Tokyo, spotlights Mono-ha artists like Lee U-Fan, Suga Kishio, and Koshimizu Susumu.

War paintings confiscated by the United States returned to Japan on perpetual loan.

1972

Okinawa restored to Japan. Winter Olympics held in Sapporo.

1974

Mona Lisa exhibition at Tokyo National Museum, draws 1.5 million visitors.

During the 1970s, prefectural and municipal art museums are built throughout Japan and retrospective exhibitions for early-modern artists are held more frequently.

1984

Meiji-bijutsu-gakkai (Meiji Art Study Association) established.

1986

"Japon des avant-gardes 1910-1970" at Centre Georges Pompidou in Paris.

1987

Exhibitor prices paid for art by Japanese become controversial.

1988

"Japanese Art of the 20s" at the Tokyo Metropolitan Art Museum and others.

1989

Showa Emperor dies. Heisei period begins.

"Against Nature: Japanese Art of the Eighties" opens in the United States. Followed by more exhibitions of contemporary Japanese art organized by foreign institutions, e.g., "Primal Spirit" and "Japanese Art Today" in 1990 and "Zones of Love" in 1991.

1990

Contemporary Art Center of the Mito Arts Foundation opens.

1994

"Japanese Art After 1945: scream against the Sky" presented by Yokohama Museum of Art.

The West

1775

American War of Independence begins.

1789

The French Revolution begins.

1804

Napoleon becomes emperor in France and sets out to conquer European continent.

1814

Goya paints *The Third of May 1808*, depicting the slaughter of Spanish resisters by Napoleon's French army. Ingres paints *Grande Odalisque*.

1824

Delacroix paints *Scenes from the Massacres at Chios*.

1840

The Opium War.

1844

Turner paints *Rain, Steam and Speed*. Ruskin's *The Modern Painters*, which spotlights Turner, had been published the previous year.

1848

The Pre-Raphaelite Brotherhood formed in England.

c. 1850

Millet begins painting subjects from peasant life like *The Gleaners* and Daumier subjects from lower class urban life.

1853

The great reconstruction of Paris under Baron Haussmann begins.

1855

Special rooms given to Ingres and Delacroix at the Paris International Exposition. Courbet stages his own exhibition near the Exposition where he shows *Painter's Studio* and other major paintings.

1861-1865

American Civil War.

1863

Controversy over Manet's *Dejeuner sur l'Herbe* and Whistler's *Symphony in White No. 1* at the Salon des Refuses. Sharp criticism of Manet's *Olympia* when it is shown two years later.

1870

Franco-Prussian War.

1871

Consolidation of the German Empire. Popular uprising in Paris leads to Paris Commune.

1874

First Impressionist Exhibition, including work by Degas, Monet, Sisley, Renoir, and Cézanne.

1880

Rodin starts work on *Gates of Hell*.

1884

Salon des Artistes Indépendants founded in Paris.

1886

Seurat shows *Sunday Afternoon on the Island of La Grande Jatte*, a major Neo-Impressionist work in the pointillist technique.

1889

Eiffel Tower built for the Paris International Exposition. Rodin-Monet exhibition.

Impressionist and Synthetist exhibition organized by Gauguin and others.

Young painters who have studied with Gauguin form a group called "Les Nabis."

1890

Vincent van Gogh commits suicide.

1892

Munich Secession organized.

1895

Venice Biennale founded.

1897

Vienna Secession organized with Gustav Klimt as president. Jugendstil attracts attention in Germany.

1900

Centennial exhibition of French art at Paris International Exposition.

Many works in the style of "Art Nouveau" on display.

1903

Salon d'Automne organized with Renoir as president.

1905

The term "Fauves" is applied to Matisse, Derain, and Vlaminck at the Salon d'Automne. "Die Brücke" organized in Dresden.

Steiglitz opens Gallery 291 in New York which becomes the base for Modernism in America.

1907

Picasso paints *Les Femmes d'Alger*.

1908

Cubist works appear in Braque exhibition.

1909

Marinetti publishes the Futurist Manifesto in *Le Figaro*.

1911

Large number of Cubist works by Delauney, Léger, Marcel Duchamp and others shown at Salon des Independants.

First large-scale Futurist exhibition held in Milan.

First "Der Blaue Reiter" exhibition in Munich.

1913

The Armory Show in New York introduces contemporary European art.

1914-18

First World War in Europe.

1915

Avant-garde activities emerge in Russia with Malevich's "Suprematism painting" and Tatlin's metal and wood relief.

1916

"Dada" movement starts in Zurich with Hugo Ball and Tristan Tzara.

1917

Picasso designs costumes and stage sets for Diaghilev's Russian ballet. Diaghilev continues to involve artists in his productions. Magazine *De Stijl* published by Mondrian and others.

De Chirico advocates "Metaphysical Painting".

Duchamp submits urinal entitled *Fountain* to an exhibition of the Society of Independent Artists in New York and is rejected.

Russian Revolution begins.

1919

Bauhaus established in Weimar by Walter Gropius. The school goes through various changes, eventually being moved and finally closed.

Teachers include Klee, Kandinsky, and Moholy-Nagy.

Duchamp returns to Paris and participates in Dada movement.

Shows Mona Lisa with mustache inscribed with letters *LHOOQ*.

Large-scale exhibition, "Non-Objective Creation and Suprematism," sponsored by new Russian government.

1920

Naum Gabo shows *Standing Wave*, pioneering work of Kinetic Art.

1924

André Breton's "Manifestes du Surréalisme". First Surrealist exhibition held in Paris the following year and the movement spreads throughout Europe.

1925

La Peinture Moderne published by Ozenfant and Le Corbusier, founders of Purism in 1918.

"Neue Sachlichkeit" exhibition in Mannheim, Germany, with work by George Grosz and Otto Dix.

1929

The Museum of Modern Art, New York, opens.

Diego Rivera begins work on murals for the National Palace in Mexico.

1933

Hitler takes power in Germany. The Bauhaus closed with the emergence of the Nazis.

1936

"Cubism and Abstract Art" presented at the Museum of Modern Art, New York.

1937

Picasso starts work on *Guernica* and shows it the following year at the Paris International Exposition. "Degenerate Art Exhibition" organized by Nazis opens in Munich. Expressionist and Bauhaus art and paintings by Picasso and Matisse presented as morally offensive "Entartete Kunst (degenerate art)."

1939-1945

Second World War. Many artists, including Mondrian, Chagall, Léger Zadkin, and Ernst, flee to the United States to escape wartime dangers.

1945

Atomic bomb dropped on Hiroshima and Nagasaki.

Fautrier shows his *Hostage* series executed during the war, the beginning of Art Informel.

1948

Korea divided between north and south with the founding of the People's Democratic Republic of Korea and the Republic of Korea. Jackson Pollock begins making Action Paintings.

1950

Korean War breaks out.

1951

Michel Tapié organizes "Conflicting Passions" in Paris to present the prominent trend of Art Informel.

1952

John Cage composes *4'33"* in which the pianist sits at the piano without playing for 4 minutes and 33 seconds.

1954

Jasper Johns makes paintings of symbols like the American flag and targets; Robert Rauschenberg makes his debut in New York with a show of *Red Paintings*.

1955

Documenta starts in Kassel, Germany.
Conference of Asian and African nations at Bandung, Indonesia.

1959

Cuban Revolution.
18 Happenings in 6 Parts presented by Allen Kaprow in New York, the beginning of a new trend of art events and performances.

1960

Yves Klein shows photograph of himself diving out of an upper-story window, a pioneering example of personal documentation which would become important in performance and conceptual art. Klein, Tinguely, and Arman become known in Europe as "Nouveaux Realistes."
Pop Art appears in New York in the early 1960s with artists like Andy Warhol and Roy Lichtenstein using everyday images from cartoons, publicity photos, and advertisements.

1961

"Young Contemporaries" exhibition in England includes David Hockney.

1963

U. S. president Kennedy assassinated.
Joseph Beuys invites Fluxus artists to perform concert in Dusseldorf. Nam June Paik uses piano destroyed by Beuys and television set to hold video art exhibition.

1965

U. S. begins bombing of North Vietnam.
"The Responsive Eye" exhibition at the Museum of Modern Art, New York, presents practitioners of "Optical Art" like Victor Vasarely and Joseph Albers.

1966

Great Cultural Revolution in China.
Daniel Buren and other artists form "BMPT" in France. "EAT (Experiments in Art and Technology)" started in America by John Cage, Merce Cunningham, Robert Rauschenberg, and a group of

engineers in an attempt to combine art with the latest technology.

1967

"Arte Povera" movement starts in Italy.
ASEAN (Association of Southeast Asian Nations) founded.

1968

May Revolution in France. Student demonstrations in Paris lead to general strike.
Gilbert and George begin their art performances.
In the late 1960s, Minimal Art, made by artists like Donald Judd and Frank Stella, is an important trend. Earth Works made in the United States and England by Robert Smithson, Walter De Maria, and Richard Long.
Conceptual Art developed in various forms by Joseph Kosuth, Douglas Huebler, and On Kawara.

1970

"Supports-Surfaces" group formed in France.

1972

Joseph Beuys holds continuous discussion with public for one hundred days about democracy and art in Documenta 5.

1975

First general summit meeting of leaders of advanced countries.

1977

Centre Georges Pompidou opens in Paris.

Late 1970s

New painting movements emerge: New Painting or Bad Painting in the United States, Neo-Expressionism in Germany, Transavantguardia in Italy.

1978

Julian Schnabel's controversial work shown in New York. Schnabel becomes a leading figure of the new expressionistic trend in painting.

1980

Iran-Iraq War.

1986

Musee d'Orsay opens.

1988

"1st Electronic Art Symposium" held in the Netherlands to discuss artistic applications of sophisticated electronic technology. Rapidly developing electronic and computer technology increasingly applied to artistic expression from the 1980s on. Much of this art shown in large industrial exhibitions.

1989

Tian'anmen incident in China.
Berlin wall comes down.

1991

Persian Gulf War. Iraq attacked by multinational force.
Soviet Union dissolved and replaced by organization of independent states.

* This Chronolgy has been compiled based on the sources provided by:
John Clark (Indonesia, Thailand)
Alice G. Guillermo (The Philippines)
Yanagisawa Hideyuki (Japan, The West)